

■ 令和3年度卒業式：式辞 ■

卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。鵜沼第二小学校の全職員を代表して、心より祝福いたします。今日、九十五名の皆さんと共に、この日を迎えられることを本当に嬉しく思います。

私と皆さんが初めて出会ったのは、平成三十一年の四月。四年生の春でした。五月には、「平成」から「令和」という、美しく柔らかな響きのある年号に替わり、記念すべき令和元年は、合唱や掃除、ボランティア活動に運動会、鵜二っ子まつりと、学校の四本柱を中心に、所狭しと駆け回りながら、大きな声で歌い、無邪気に笑い合う日々を過ごしました。私も、皆さんと一緒に泊まった少年自然の家で、三度の食事を一緒にとりながら、楽しくおしゃべりしたことが、今でもとっても素敵な思い出として、この胸にあります。

けれど、令和二年二月の終わりを境に、それまで普通にできていたことが、突然、できなくなりました。三月（みつき）に及ぶ休校期間は、本当にやりきれない気持ちでいっぱいでしたが、学校再開後は、この鵜沼第二小学校に通い、同じ時間を、この仲間と共に過ごせること自体を大きな喜びとし、エネルギーに変えて、以来二年間、皆さんは、たくさんの「できない」を、「できる」に変えてくれました。

「新・鵜二っ子まつり」は、卒業した先輩たちと共に。「ウニリンピック」は皆さんが全校をリードして、鵜二っ子たち全員の心と心をつなぎ、マスクの下でもそれとわかる満面の笑み、充実感あふれる笑顔を学校に取り戻してくれました。今、ここに、全校の先生方に代わって、改めてお礼を言います。本当にありがとう。

皆さんは、この鵜沼第二小学校で、「決してあきらめない心」を身に付けました。これまでの「普通」が「普通」でなくなる中、「本当に大切なものは何なのか」を見抜く力を、身に付けました。そして、これからの中学校生活、ひいては、この先、生きていく上で何よりも大切な、「ピンチをチャンスに変え、困難な状況を突破する力」を身に付けたのです。

中学校では、新しい経験がたくさんできます。新たな友達も待っています。本当に、楽しみです。でも、初めて経験するからこそ、戸惑うことやちょっと辛いなど感じることもあります。そんな時こそ、この二年間で培った、迷った時は前に出る勇気を発揮し、敢えて厳しい道を選ぶ皆さんであってほしいと願っています。君たちなら、きっとできます。職員一同、それを固く信じています。自信を持って中学校に入学しましょう。

最後になりましたが、卒業生と本校のためにお力添えを賜りました御来賓の皆様、保護者の皆様に、改めて、厚くお礼を申し上げます。今後とも温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、私の式辞といたします。

令和四年三月二十四日
各務原市立鵜沼第二小学校長 山田高秀